

志井校区共生まちづくり live together 2023

住民発！

志井校区 小地域福祉活動第三次計画



志井校区社会福祉協議会

ごあいさつ

志井小学校創設 140 年を走り抜けながらの歴史は、よろこびと感動であり、志井の財産は風雪に輝きながら、意気揚々と且つ、揉まれながら包み込んできました。さくらとほたと志井川を名所に育て上げたのは志井小校区に住む私たちです。



文教の学生と地域が 820 名で志井川のほとりに大結集させての清掃は、迫力とスケールと若さがはじけ飛んだ圧巻でした。環境局がお茶 1000 本を志井川に持ち込んだ背景は、志井校区まちづくり協議会、文教サミットの学生の底力でした。この文教サミットの 380 名もさることながら、登校時は道がなくなり、子供で一杯、車は徐行等、民族の大移動です。

平成 17 年からスタートしたラジオ体操は、当該期間の最高で 9,300 名を獲得という結果で、親からラジオ体操の季節は、夜 9 時に寝つくので、本当に助かると喜ばれました。志井川の周辺や通学路は、ゴミ集めもすすみ、きれいになりました。

平成 28 年には、志井校区まちづくり協議会会長として、防災で内閣総理大臣賞をいただきました。これらの活動に加えて、「小地域福祉活動第 3 次計画」を策定し推進していこうと考えています。これからの 5 年間は、住民を取り巻く福祉の環境は大幅に改革される重大な時期と思われまます。イロハのイから考える覚悟で進めて参ります。こんなに愉快で、たのしい、すごい迫力に満ちた志井のまちを皆さんとともに、作り上げていくのです。

向こう 5 か年間の計画「第 3 次計画」をみんなで大切にしながら、共に進んでいきたいと思ひます。志井小学校の偉業があります。学校健康推進優良校 全国 25,000 小学校中、第 7 位です。バンザイ！！ 志井 バンザイ！！
今後とも、みなさんのお力を借ります。ご支援をお願いします。

令和 4 年 11 月吉日 大迫隆典

目 次

		第 3 章 重点実施項目	…P5
		1 文教サミットの充実による地域福祉活動	
		2 災害に備えた防災訓練や研修の実施	
		3 ふれあいネットワークの活用	
ごあいさつ	…P1		
第 1 章 計画策定にあたって	…P2		
1 計画策定の背景と趣旨			
2 計画の性格		第 4 章 志井校区の現状と課題	…7P
3 計画の期間		1 地域社会の動向	
4 計画の策定経過		2 地域の福祉課題	
第 2 章 計画体系	…P3	第 5 章 計画の推進	…8P
1 基本理念		1 地域への計画の承認と周知	
2 基本目標		2 計画を推進するための体制	
3 基本項目		3 第四次計画の策定	

(参考資料:策定委員会名簿)

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の背景と趣旨

我々を取り巻く福祉環境は、高齢者、障害のある人、児童などの属性に応じた公的制度が発展し、専門的な支援が提供されてきました。しかし、近年では、少子高齢化や人口減少、支え合いの基盤の脆弱化、福祉を担う人材の不足等に伴い、従来の制度では、対応が難しくなっているのが現状です。

こうした中、「地域共生社会」の実現が国の方針として示されました。この地域共生社会とは、「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて地域住民が「我が事」として参画し、人と人が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を実現しようとするものです。

2 計画の性格

(1) 住民発信の行動計画

この計画は、志井校区の様々な福祉課題を解決するために、住民や民間団体が将来の見通しを持って計画的に活動しようとするための地域住民の行動計画であり、志井校区に住む人たちの「生活」を支えることを活動の原点としています。

(2) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉南区社会福祉協議会と協働する計画

この計画は、北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉南区社会福祉協議会の計画に準拠・連携しながら地域福祉活動を進めていくものです。

(3) 志井校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにする性格を有しています。

(4) 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した持続可能な計画

「新しい生活様式」では、身体的距離の確保、マスク着用・手洗いの徹底、3つの密の回避が求められ、地域福祉においても、この生活様式に配慮した活動を行う必要があります。

3 計画の期間

令和5年度～令和9年度までの5ヵ年とします。計画の期間中、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を含め、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、見直しを行います。

4 計画の策定経過

第二次計画の最終年度である令和3年度においては、コロナ禍にあってコロナまん延防止策等行われ、市民センターの利用制限や地域活動が制限され、第三次計画を協議することができませんでした。令和4年度において、第三次計画（令和5～9年度）の策定に着手し、志井校区社会福祉協議会役員が協議を積み重ねた上、「第3次計画」の原案を作成し、従来から設置されている策定委員会の各委員と書面をやり取りしながら、各委員の意見を反映し、志井校区小地域福祉活動第3次計画を策定しました。策定委員会は、平成28年11月29日に立ち上げた同委員会において、14名の委員により構成されており、この構成を継続しています。

なお、令和4年度においては、諸活動が切れ目なく円滑に実施できるように第二次計画を継続運用しています。

第2章 計画体系

第二次計画の振返りの結果、第三次計画の基本理念、基本目標とともに共通事項として少し変化させた計画体系を作成しました。基本理念、三つの基本目標、九つの基本項目から構成しています。

1 基本理念 ⇨ 「地域の絆 “共生” を感じる志井のまち」

志井校区では、子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらず、誰もが住み慣れたところで安心して生活できるまちにしたいと願っています。そこで「地域の絆 “共生” を感じる志井のまち」という言葉を計画の基本理念として、計画を推進していきます。

2 基本目標

(1) 福祉の風土を広げ、地域の困りごとに気づこう！

- ① 福祉の心を広げよう
 - ✓ 初歩的な清掃活動や挨拶から始めよう
 - ✓ 環境3Rに基づく啓発用品の配布（リデュース、リユース、リサイクル）
 - ✓ 広報誌を発行し配布する
- ② 見守る力を高め、困り事を受け止める場を作ろう
 - ✓ 支援を必要としている方への声掛け・見回り
 - ✓ 夜間パトロールの実施
- ③ ふれあいネットワークを活用しよう
 - ✓ 誰でも気軽に立ち寄れるセンターにする
 - ✓ 福祉協力員を増やし住民との連絡を密にする

(2) 地域住民の関連機関等のネットワークを活用しよう！

- ④ 「連絡調整会議」の充実を図ろう
 - ✓ 地域伝統行事等に配慮した取組み（バスハイク）を通じて住民と話し合う
 - ✓ 校区自治連合会と各町内会との連絡を密にする
- ⑤ サロン活動の充実を図ろう
 - ✓ 現在4サロンの活動を充実させる
 - * すみれ会・・・（茶話会・体操・歌・季節の行事）
 - * ごきげんよう会・・・（講演会・茶話会・体操・踊り・勉強会）
 - * 悠耕会・・・（そば栽培から製粉）
 - * 元気な寿会・・・（花壇づくり・史跡巡り）
- ⑥ 文教サミットの充実による地域福祉活動を活発にしよう
 - ✓ 学園地域という事で、学生達と行動及び会議を密にしていく
- ⑦ 地域の活動を活発にしよう

* 志井川清掃	* 餅つき大会	* グランドゴルフ
* 球技大会	* 体育大会	* 敬老会
* なつまつり	* ほたる祭り	* 志井ふれあい文化祭
* ラジオ体操		

(3) “地域共生社会” を実現しよう！

- ⑧ 生活の困りごとを助け合おう
 - ✓ 各サロンの場を通じてよく話し合おう
- ⑨ 災害時に備えよう
 - ✓ 避難所の設営、開設に向けて講習を受ける
 - ✓ 防災訓練や研修の充実（あそぼうさい）を通じて子供たちにも参加してもらう

3 基本項目（体系図）



基本理念「地域の絆”共生”を感じる志井のまち」



第3章 重点実施項目

重点実施項目	1 文教サミットの充実による地域福祉活動
	2 災害に備えた防災訓練や研修の実施
	3 ふれあいネットワークの活用

重要実施項目 1 『文教サミットの充実による地域福祉活動』

(1) 課題背景及び現状

志井校区には、初等・中等・高等教育機関の全てが立地していると云う特有の地域性が有ります。

高等教育機関に於いては、校区以外からの学生が、多感な青年期を地域福祉活動に参加する事により、健全な青少年期の育成につながっています。

北九州工業高等専門学校・常磐高校・九州職業能力開発大学校（ポリテクカレッジ）が、校区の清掃活動を通じて、福祉活動に貢献し地域住民との交流を深めています。

(2) 活動の方針・目標

地域と教育機関が連携して、地域の福祉活動に貢献する事を目的とした協議会（サミット）を立ち上げています。

【策定実施項目】

- ①地域清掃活動
- ②教育機関との連携
- ③健康推進運動（ラジオ体操・健康ウォーキング・グラウンドゴルフ等）
- ④市民センター活動への参加・呼びかけ
- ⑤地域住民との交流行事（球技大会・夏祭り・敬老会・運動会・文化祭等）
- ⑥買い物弱者への対応（乗り合いタクシー利用に関するアンケート調査）

以上の内容を実行することで、今後5年間で文教サミットを更に充実させます。

重点実施項目 2 『災害に備えた防災訓練や研修の実施』

(1) 課題背景及び現状

近年、想定を遥かに超えた自然災害が頻発している状況に於いて、志井校区では、犠牲者が出ないように、毎年防災訓練を実施しており（コロナ禍で、2年間中止）、今後も充実した内容の訓練を行ってまいります。

また、福祉救護体制も、より一層強化し、大規模な自然災害にも対応できる訓練を重ねながら、志井校区住民の絆を育んでいきます。

更に、防災活動は、研修・会議・避難訓練ともに地域との連携が強化され、地域住民と連携した避難所開設・運営事業を開始します。

(2) 活動の方針・目標

防災活動（研修・会議・避難訓練）は、新たな段階をめざします。また、避難所開設は、地域主体の防災力を高めていく取り組みであり、

- ・近隣住民による迅速な開設
- ・安心した避難
- ・地域人材の活躍
- ・地域防災力の向上

のメリットがあると考えられ、今後5年間の目標とします。

重点実施項目 3 『ふれあいネットワークの活用』

(1) 課題背景及び現状

志井校区のふれあいネットワークは、今年で25年目になります。私達が暮らすこの地域は、交通・医療・教育機関が充実しています。生活の利便性向上により、マンションが増え、それに伴い若い世帯（子ども）の転入が続いています。

住民の高齢化は進んでおり、独居の世帯も増加しているのが現状です。それに加えて、地域交流事業が制限されている状況下で、自治会への加入・未加入に関わらず、『全ての住民を見守る』には、どうすれば良いのかが、今後の課題です。

(2) 活動方針・目標 (5年後の目標)

〔 ふれあいネットワークの認知度を上げ
『知らない』から『みんな誰でも知っている』へ 〕

志井校区では、地域が地域住民との交流を目的としたさまざまな活動を行っていますが、そのことを知らない方が多くいます。

安心・安全な街づくりを目指す上でも、自分が暮らしているまちに、ふれあいネットワークという、要支援者を見守るシステムがあるという事をよく理解してもらい、周知していきます。

また、高齢者のサロン活動も拡充し、地域の絆をより一層深め、安心して暮らせる志井校区まちづくりを推進していきます。

★ 『第2、第3、第5章』 の イメージ図



第4章 志井校区の現状と課題

1 地域社会の動向

志井校区データ

令和3年9月現在

人 口	8,408人	小 学 校	志井小学校
世 帯 数	3,772世帯	中 学 校	志徳中学校
高 齢 化 率	29.6%	公民館・市民センター	志井市民センター
一人暮らし高齢者数	135世帯	地域包括支援センター	小倉南4
その他社会資源等	北九州工業高等専門学校、 九州職業能力開発大学校「九州ポリテクカレッジ」 常盤高等学校		

人口等推移表

年度	人口	世帯	65歳以上	高齢化率
平成30年度	8,626人	3,663世帯	2,290人	26.5%
令和元年度	8,546人	3,676世帯	2,371人	27.7%
令和2年度	8,570人	3,726世帯	2,442人	28.5%
令和3年度	8,495人	3,755世帯	2,490人	29.3%
令和4年度	8,408人	3,772世帯	2,490人	29.6%

平成30年度と比べると、人口は減少していますが、世帯数は増加しています。また、高齢化率は3.1%増加し、高齢化は進んでいます。

志井校区は、小倉南区の南部に位置し、旧来の農業地域（市街化調整区域）を有するとともに、モノレール・日田彦山線沿線・バス路線にあり、交通の便利さから、北九州市のベッドタウンとして多くの団地・マンションを有する地域です。また、幼稚園から大学までの教育機関があり、文教地域としての特色もあります。

2 地域の福祉課題（及び小地域福祉活動の課題）

今日、「地域共生社会の実現」が求められています。北九州市においても、「北九州市地域福祉活動第六次計画（2021～2025）」に、地域生活の中にある困りごとを見つけ、話し合い、解決するしくみの充実を目指しています。

いま、地域の困りごとで「一人暮らしで、体調が悪くなったら大変だ。」「ウイルス感染症拡大で外出もままならない。」「サロン活動をしたいけど場所がないわ。」などが言われており、志井校区においても、計画体系の中に、話し合いの場の充実や防災訓練の充実を掲げており、みんなが安心して暮らせるまちづくりに努めて参ります。

志井校区では従来から、ふれあいネットワーク活動が展開され、安心して暮らせる志井校区まちづくりを推進していますが、少子高齢化の影響、志井校区内の高齢化率の高さなどから、特に、福祉協力員1人当たりの負担が大きく、そのために校区内では福祉活動者の確保及び育成が求められています。

また、近年では高齢者を対象とした消費者被害や、徘徊問題も発生しており、日頃からの見守り活動に加えて、地域行事を利用した住民への啓発活動も行っていきます。

第 5 章 計画の推進

1 地域への計画の承認と周知

- ① 校(地)区社会福祉協議会総会等を通じた社会福祉協議会活動者への計画の承認と周知
- ② 計画の実施項目を進めていく上での関係機関・団体への周知・協力依頼等、計画を推進していくために、計画の広報活動を行います。

2 計画を推進するための体制

(1) 小地域福祉活動計画推進委員会の設置

計画を推進していくために、志井校区小地域福祉活動計画推進委員会を設置し、計画の進行管理を行います。

- ① 関係機関・団体との連携・意見聴取
- ② 計画内容の具体的な実施方法
- ③ 進行管理の実施

等について、委員会では協議を進めていきます。

(2) 計画の進行管理

志井校区小地域福祉活動計画推進委員会を年 1 回程度開催します（当年度の事業推進の確認、年度内における中間確認、次年度の事業確認。）。

委員会では、PLAN（計画立案）DO（実行）CHECK（点検・評価）ACT（改善）という PDCA のサイクルを回しながら、計画内の各実施項目の進捗状況を把握し、必要に応じた見直しを行い、進行管理の徹底を図っていきます。

(3) 計画の評価

計画期間の中間時点では計画全体の中間見直しを、最終年度には総括評価を行います。

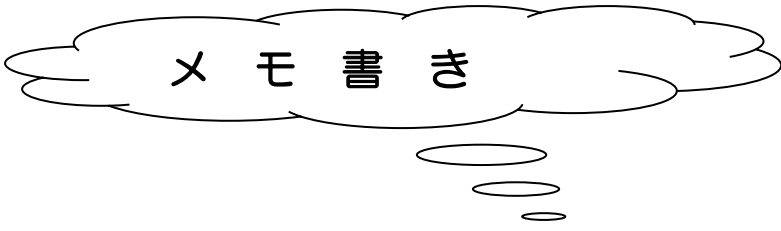
3 第四次計画の策定

第三次計画の推進状況を踏まえて、第四次計画の策定期（令和 9 年度予定）には第四次計画策定委員会を設置（又は再開）し、計画策定に向けて協議を進めていきます。

《志井校区小地域福祉活動計画策定委員会委員名簿》

	氏名	所属団体	役職	備考
1	大迫隆典	志井校区社会福祉協議会	会長	委員長
2	岩本力	〃	副会長	
3	國政一代	〃	副会長	
4	熊田博計	〃	副会長	
5	緒方幸一	〃	会計	
6	小島宗重	〃	事務局	
7	稲月道子	〃	事務局	
8	小野瀬英明	〃	事務局	
9	入江司	桜ヶ丘第一町内会	会長	
10	伊東照秋	志井地区民生委員児童委員協議会	会長	
11	中原伸子	〃	副会長	
12	坂井一己	志井校区老人クラブ連合会	会長	
13	高橋公夫	福祉協力員	協力員	
14	柚木高広	志井小学校PTA	会長	





.....

.....

.....